

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「変わらないみことばを、変わり行く時代の中で」

同盟福音 羽島キリスト教会牧師 隈上正敏

「…そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。」

ペテロの手紙第一 3章 15節

聖書神学舎の遠隔地入試を九州の母教会で受験した私が、初めて当時の建物を見たとき、それは倉庫に見まがう外見だった。しかしそこで受けた学びは、母教会の老牧師が伝えてくれた聖書信仰が、どれほど学問的にも裏づけのあるものであるかを確信させ、日々の学びが感動の連続であった。神学校を卒業後、超教派の伝道団体、新潟の教会、愛知、岐阜の教会での奉仕を続け、守られて今日に至っている。

(1) 求めに応えて

聖書神学舎創立 50 周年記念礼拝が、昨年 10 月 17 日に行われた。それは主からこの学舎に与えられた使命を確認する、幸いなときであったと聞いて感謝している。

2005 年 3 月、聖書宣教会より私の許へ突然、「モリヤ問題」の事後対応のためにともに労していただけないかと連絡があった。それは責任役員就任への打診であった。一週間ほど祈らせていただき、主のみこころと信じて要請に応えた。それから頻繁に東京に通うようになった。最初に会議に加わって感じたことは、この問題はともすれば人への信頼を重要視する福音的な教会、団体の中でも起こりうるものではないか、ということであった。しかし会議の中で次第に見えてきたことは、その問題の看過できない深刻さであった。それは神学校や教会を始めとする、信仰によって社会に立たされている団体が、その生き方を、どのように社会の中で立証していくのかという課題と責任につながっていた。自ら引き起こしたその重大な課題の中で、宣教会は信仰によってどのように対応していくのかという、主からの厳しい問いかけを受けていた。責任役員会はこれに対応する中で、4 つの分野を中心に緊急の課題に取り組んだ。

そして 2009 年春からの新しい体制の下でのスタートを目指した。



(2) 聖書神学舎の使命と課題

4 つの分野の 1 つは、教師会によって始まっていたカリキュラムの見直しであった。結果は、聖書学科目の強化や実践神学科目の整理統合を中心とした新カリキュラムである。それは日本の神学校の中における聖書神学舎の使命は、聖書原語に基づく聖書神学の研鑽であることを意識した選択である。そして何よりも、建学の精神に立つ選択であることが意識されている。変わり行く時代の中で、変わらないみことば（聖書）を、神学教育の中心に据えることを確認したのである。教師会のこの選択を喜んでい

このことは同時に、ある課題を不断にこの学舎と卒業生たちに問いかけていると思う。現在、聖書神学舎の本科には 3 年課程と 4 年課程があるが、例えば 3 年間で聖書原語のギリシャ語とヘブル語を学び、聖書に関する基本的な学びから進んだ学びまでをカバーしようとするのは、かなり大きな課題である。それに研修生たちは、寝食を削るようにして応えようとする。その時、聖書に書かれている原則や教えを、どのように教会に仕える奉仕の中で実行していくのが課題となる。聖書神学に根ざした実践神学の構築にどのように取り組むかと言い換えてもいいだろう。そのために、牧会の現場で奉仕している神学校 OB を招いての特別講義やそれぞれの分野に強い神学校の教師による特別講義も役立つことだろう。また研修生に普段の教会奉仕のほかに、調整期間中にキャンプ伝道などの特別伝道プログラムに参加することを課すことなども考えられるのではないかと。

聖書神学に使命を持つ牧師養成のための働きとして、聖書神学舎の成長を期待し続けている。

「中教室の風景」

私たち 3 年生は、研修生 4 名に対して、折りたたみ机 6 脚という非常に贅沢な空間で学んでいます。しかも、これはまだ教室の半分の機能しか使用していない状態でのことです。真ん中



を仕切るパーティションを開くと、広さは倍になり全学年の合同授業等も行えます。また、2 階

の角部屋のため 3 面に窓があり、朝は豊かな光に溢れ、窓を開ければ羽村の澄んだ空気とともに鳥のさえずりが流れ込み、自然と主の恵みの感謝へと導かれます。

(本科 3 年 森下 信義)

.....

「单身寮」

「单身寮」は、夏に断熱・空調工事がなされて、一層集中して学びと訓練に向き合える環境です。



毎朝、持たれている单身寮の早天祈祷会。

今日も忙しい研修生活、でも、まず「祈りありき」

です。寝食をともにする仲間たちと、心を静めて聖書のみことばに耳を傾け、心を合せてともに祈る、朝の恵みのひとときです。

(本科 4 年 正村 献三)

单身寮は、三食を共にし、一つの大きな家族のようにして生活をしています。その中で、時に衝突もありますが、同時にこの環境だからこそ得られる成長や励まし、そして「ともに主の下に向かう真実な交わり」が与えられています。

(本科 4 年 東 沙織)

.....

「声かけと祈りの奉仕」

奉仕教会の牧師から、「心がけて欲しいことは、礼拝後に皆さんへの声かけと、ともに祈ること」と指導されています。特に、求道者や初めて来た方、一人きりで居る方に声をかけ、お話を聞き、ともに祈りすることです。自分の経験から話すのではなく「主」がお語りくださるのを心がけております。

(聖書科 2 年 若林 正一)

.....

聖書神学舎における研修は、教室での学びとともに、寮生活、研修生会活動や教会奉仕などの訓練の場においてなされています。紙面で紹介できることはあまりにもわずかですが、これを手がかりに想像力を働かせてみてください。そして、神を知り、自らを知ることを深める経験であるように、研修生活のためにお祈りください。

(研修生活主任 赤坂 泉)

図書館だより

図書館長 津村 俊夫

この度、図書館にデータ検索用の iMac が二台与えられました。インターネットに繋げて WEB 検索が可能に



図書館入口から見た 180 度の合成パノラマ写真

なっただけでなく、アッコダンス (Accordance) という聖書検索プログラムと、ロゴス (Logos) データベース検索ソフトが使用可能になりました。これらのプログラムによって、ヘブル語とギリシア語の聖書の原典テキストの複雑な検索が可能になりました。それと共に、聖書学だけでなく、神学、教会史関係の代表的な資料の閲覧も少しずつ可能になります。これから様々な情報を、使いやすい形で提供できる図書館にしたいと願っています。皆様のアドバイスやご支援を引き続きお願いいたします。

2010年度より、聖書神学舎聖書科・教会音楽専攻がスタートします

岳藤 照子

2010年度より、聖書神学舎聖書科・教会音楽専攻がスタートします。

教会の多様な働きのひとつである教会音楽の分野は、礼拝の大切な位置を占めています。毎年行われる夏の教会音楽講習会には、以前にも増して、学びの必要を覚えて大勢の方々が熱心に集うようになりました。こうした教会の必要を覚えて聖書神学舎聖書科・教会音楽専攻を開講し、伝道者養成の学びの中で、賜物を与えられている方々の為に、神学と教会音楽専門科目をコンパクトにまとめ、短期即ち2年で、最大限に学んで修了出来るように配慮したカリキュラムとしました。神学科目担当の先生方を交えての懇談も何度となく行われ、音楽と神学の接点がより明確になり、神学の学びは聖書科・聖書専攻並みにカリキュラムが設定されています。

勿論、教会音楽家として充分であるとは思いませんが、かなりの時間を掛けて検討した結果

です。ここに到達するまでには、宣教会での教会音楽教育停止も聞こえて来ましたが、そんな時、音楽担当者は主が備えられた学びを何らかの形で、ここに残し、継続したいと言う強い意向を持ち、その点で一致していました。キリスト者にとっての、御名をあがめる礼拝に、音楽奉仕者も、みことばと音楽の学びによる訓練を受けて、整えられた良きご奉仕が出来る事を目標に、共に励んで行きたいと願っています。

教室も整備され準備は整いました。音楽を用いて主にお仕えしたいと召命が与えられている方、大歓迎します。確信を持って一步踏み出されてはいかがでしょうか？不明な点がありましたら、ぜひお問い合わせください。お待ちしております。

「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」

ピリピ2:13

近況と祈りの課題

- 後期の歩みが始まっています。研修生各学年の学びと訓練が祝されますように、とりわけ7名の卒業予定者の歩みが守られ、整えられますように。
- 今年度後期から奉仕を開始、また再開して下さる講師の先生がたの働きが祝されますように。送り出してくださる教会の上にも主の顧みと祝福がありますように。教職員の上にも主の守りがありますように。
- 学舎の建物は、年内に外壁の防水・塗装を行って一連の工事を完了する予定です。この施設、設備も主がますます用いてくださいますように。
- この時代に、福音宣教のために、主が働き人を起こしてくださいますように。2010年度の入会生募集の始まっている聖書神学舎にも、主のみこころの通りに新入生が導かれますように。
- 新改訳聖書の大改訂が具体化して、新日本聖書刊行会が組織され、聖書神学舎の教師たちにも、卒業生にも、理事、編集委員や翻訳改訂委員として奉仕する方々があります。この方々のために。
- 島田福安先生を主のみもとに送られた礼子夫人のうえに主の慰めが豊かにありますように。

編集後記

学舎の中庭でも、木々に日差しに秋の訪れを感じます。秋のオープンデイには多数の来会者を歓迎しました。祈り手たちを主に感謝し、また、献身者が加えられるように祈る日でもありました。順境にも、思いがけな

い状況に直面するときにも、変わることなく主を信頼し、主に聴き従って歩むことのできる信仰者の幸いを覚えていきます。(A)